



5年生話題提供授業 協議会記録

成果

◎児童の様子

- ・ホームグラウンドがあることで、作戦タイム終了後にすすんで練習を行っていた。
- ・作戦ボードを活用して、次のゲームの作戦を立てていた。
- ・「早く集合しよう。」と声を掛けたり、重たい得点板を協力して運んだりする姿(学びに向かう力)が見られた。

◎教師の支援

- ・教師が作戦を意識させようと、チームごとに適切に声掛けをしていた。
- ・作戦タイムでボールがうまく取れない女の子がいるチームに対して、チームの仲間に「味方が取れるパスを投げてあげるように。」とアドバイスをしていた。

課題

◎作戦と個人のめあて

- ・作戦の言語化が難しい。チームの作戦と個人のめあてがずれている。振り返りの時間も両方を授業の中で確保することは難しい。
振り返りでは、子供の認識と教師の言わせたいことにずれがあったので、視点を明確にするとよい。
振り返りも、時間がない時などはチームで振り返りたいのであればチームの振り返りだけでもよい。

◎運動量

- ・子供たちは、ゲームが終わった後に汗をたくさんかいていて、とても疲れていた。練習から激しく動いていたため、試合に影響するチームもあったが、運動量は確保できていた。

◎課題の把握

- ・課題を把握できていないまま作戦を立てているので、ランパスなどの作戦を立ててはいるものの、それを意識して試合の中で生かせていなかった。また、チームの作戦タイムでの練習も作戦と合った練習になっていなかった。

☆「勉強になった！」ポイント☆

〈タグラグビー〉

タグラグビーという授業を今回初めてじっくり見たが、とても面白い運動で自分もやってみたいと思った。5年生は初めてということで、タグを取られる回数での攻守交替はなく(本当は4回取られたら交代。)、ルールを簡単にしていたが、簡単にしていたことで攻め方にパスの必要性があまりなかったことが作戦と試合の動きに違いが出ていた原因かもしれないと感じた。今後もルールの工夫は色々できそうだと思った。今回の授業では、先生が6つのチームの作戦を暗記していて、3つのコートを駆け回り、大きな声で応援し、アドバイスする姿が勉強になった。

☆一人の児童をどう変えるか！

- 1 対抗戦の意味を理解していたか
「これが原因で負けたから、次はこうしよう。」など、次につなげる姿勢を低学年から意識させる。
- 2 ボールに触れなくても試合が成立していた
チームの人数を見直す。3対3にするなどボールを触らないといけない状況を作るようにする。
- 3 遊びの要素を入れるか
練習で取り組んだタグ取り鬼で表情が生き生きしていた。
- 4 振り返り
全体の振り返りとチームの振り返りがあった。どんな力がついたのかを1分で振り返るのは難しい。チームで振り返りたいのであれば、そこを明確にしてチームで振り返るだけでもよい。
- 5 評価基準
(試合中あまり動いていなかった) 児童が足で動いて自分が実感した振り返りをしてほしい。C 評価を付けた児童を、次回の授業でBにするために授業を改善していく。

キラリと光る付箋 文責：菊地

- ・緑チームのAくん、相手チームの特性を理解した上で作戦を考え、提案していた。
- ・作戦タイムでよく話し合っていた。(白チーム)内容は守りのフォーメーションについてがほとんどだった。「チームで広がる」という作戦についてはふられていなかった。
- ・作戦の言語化ができておらず、チームの人にどんな作戦をするのか伝わっていないことがあった。(もっと作戦カードを活用できるとよい)
- ・作戦タイムでの話し合い。「〇〇さんは強いから・・・」、「配置をこうしよう」、「つかれた人は・・・」などの内容で、チームとしての作戦はあまり見取れなかった。
- ・白チーム、作戦(広がる)と練習(タグとり鬼)とゲームの様子(ランニングパス)がちぐはぐしているが、子供は誰も気づいていない。
- ・パスでつなげていくというより、相手のすきをついて点を取る方が多かった。後半横パスが活用でき、パスに関する作戦が出ると思ったが、出なかった。
- ・黒チーム、Kさん「ナイスタグ!」、「ドンマイ!」と控えに回ったときにプラスの声掛けができていて素敵だった。
- ・まとめ(振り返り)は、「作戦を生かしてできたか」をグループに聞いた方がよかったのでは？

「作戦(攻め方)」と「ポジション」、同じようで違うな…と協議会を通して気付かされました。児童が、その二つを混同させていたことに気付かれた先生方が多く、ねらいに沿った児童の姿を具体的に想定されているからこそその見方だな、と勉強になりました。また、作戦カードをどのように活用できるかも協議会で話題になりました。提示されている作戦から選択し、実行するということはなかなか難しいのだな…と感じる一方、子供にとって必然性のある作戦を提示するというのも必要だなと感じました。今回は、事情により例年よりもコートが狭い状況だったため、カード上の作戦をするよりも、タグを取られてもすぐに切り替える!ということに集中していたように感じます。4年生からタグラグビーに取り組んでおくこと、プレー中の人数を減らして効果的に作戦を実行できる環境をつくること等、様々な意見が出ました。系統性を意識して内容を配置したり、児童の必要性に応じたものを選択できるようにしたりすることは、体育も図工も大切だなと感じました。先生が提案してくださった授業のおかげで、教科をこえた学びも深まったように感じます。本当にお疲れさまでした!

授業提案をいただき、ありがとうございました。4年生では、これから「フラグフットボール」に取り組む予定です。1チームの人数や作戦カードの活用方法、チームの課題を把握した上での作戦づくりなど、5年生につながるよう指導したいと思います。